

令和3年度
学校関係者評価書

〈専〉 京都伝統工芸大学校

学校関係者評価委員会開催の記録

1. 開催日時 令和4年2月16日（水）午後3時00分～午後4時30分

2. 開催場所 京都伝統工芸館 8階会議室

3. 出席者

松本 一男 京都府南丹教育局長
杉島 敬志 放送大学京都学習センター 所長
三田 康明 生田グローバル（株）顧問
兼松 俊明 京都漆器工芸協同組合 理事長
太田 知良 卒業生
草留 大優 卒業生
田中 宏明 卒業生田中めぐみさんの保護者

（学校関係者）

新谷校長 工藤教務部長 近藤事務部長

4. 総括

1) 大学校での学生指導、教育編成、自己評価等の学校運営について、企業、卒業生、父兄の視点から検証を行った。今年度も、コロナウイルス感染症の影響により教育課程は変更を余儀なくされた。学校運営に多大な苦労が伴ったものの、入学式・卒業式、作品展の開催等の一連の行事を終えたことを評価したい。感染症対応にも配慮し、改善を重ねた学校運営は妥当であった。

2) 本年の議論のなかでは、入学前から疾患を抱えた学生が増加し、対応に苦勞しているとの報告があった。精神の疾患の場合外部からの判断は難しく、なおかつ個々人の置かれた家庭環境によっても大きく影響するため、対応する関係者の負担は相当なものと思われる。そうしたなか、保健師、カウンセラーを配置した相談窓口を設け、父兄との連絡を緊密にとるなどにより、学生生活を支援していることは、当校の教育活動の成果として評価したい。疾患を抱えた学生の受け入れは今後も継続すると思われる。目の前の課題への取り組みの中で改善を重ね、良好な就学環境を維持発展させていくことを期待する。

3) 本年は、伝統工芸産業の事業承継、文化財の保存や伝統文化の承継についても議題にのぼった。文化財・伝統文化のもつ魅力の発信を、官民一体となって進めていくことの重要性につき意見が一致した。若年者の工芸への関心を高めていく上で、当校が果たす役割についても期待が寄せられた。伝統工芸品の魅力を通して文化財、伝統文化の素晴らしさを発信する学校づくりを期待したい。

4) 例年のことながら、学内の様々な場面で、教員と学生が適切な距離を保ち、学生の特性を踏まえて指導が行われていることが確認できた。知識の教授や技能の習得のために指導がなされることは当然であるが、加えて思考力・判断力・表現力などの育成につながるものでなければならない。そのためには、教職員が学生の「生きる力」をはぐくむ理念を共有し、継続して組織的に取り組む仕組み作りが重要である。自己点検を繰り返しながら、長期的な視点での取組みを求めたい。

5) 学校関係者評価委員会としては、今後も、客観的な視点から様々な提言を投げかけることにより、当校が社会の信頼を得られるようにサポートしていきたいと考えている。

5. その他 学校関係者評価委員会で検討された事項

検討事項				学校関係者の評価・提言
基準	項目	総括	自己評価	
教育活動	目標の設定	教育課程編成に当たり、卒業生内定企業から意見聴取し、教育課程に反映させている。各学科の教育目標、育成人材像をできるだけ具体的に示している。		適正に運営されている。
	教育方法・評価等	職業実践教育の視点で教育内容・教育方法・教材等工夫しているか 授業科目について、授業計画（シラバス・コマシラバス）を作成しているか		適正に運営されている。
	交換留学・インターンシップ等学外活動	活動の重要性を認識、プログラムの充実を図っていく。		新型コロナウイルス感染症の影響は少なかつたが対応は十分だった。活動の継続を期待する。
	教員・教員組織	常勤・非常勤講師を問わず、採用・育成の各段階における体制が整っている。年齢構成の均衡については課題が残る。		常勤・非常勤を問わないFDの実施を検討したい。
学修成果	資格・免許の取得率	資格取得者を多く輩出するためにカリキュラムや指導方法の研究も行っている。		小目標をいくつか設け、最終的に伝統工芸士の取得を目指す工夫を評価したい。長期的な目で見ていきたい。
	就職率	就職希望学生への指導は、就職専任スタッフが個別面談を進め、学生個人の資質、適性及び能力と属性を十分に考慮した指導を実践している。 それらの達成状況（就職率）は担当部署で管理されている。		高い水準で推移していることを評価する。進路を決定していない在学生、卒業生の指導の更なる向上を期待する。

学 生 支 援	学生相談	学生の兆候を担当が見逃さずに捉え、その都度対応している。節目ごとに個別面接を行い、進路、悩みなど聞きだし対応している。結果は指導記録にまとめ情報共有している。		学内に学生相談室を設置し、専門相談員に心身についての相談ができる体制をとっている。日常の体調不良、健康相談やケガの応急処置に対応している。 近隣の医療機関とも連携し緊急時においても対応している。
	保護者との連携	定期的に行っている。必要に応じて保護者に来校していただき、面接している。もっとも業務時間内の連絡が困難であったり、理解が得られない保護者が増えており、担任の負担が増している。		担当の負担が大きくなると懸念されるが、学校・学生・家庭の方向性が一致した上での指導を継続して欲しい。保護者説明会の実施などは家庭との連携関係構築に大いに資するものとする。
学 生 募 集	学生募集活動は、適正に行われているか	将来を意識した学生および保護者に対して、的確な情報を伝え、納得のいく進路決定を実現させたいと考える。高校側に対しても志願者について現状の認識と将来への展望を伝え、進路選択に役立ててもらいたいと考える。		オンラインでの説明会等、状況に応じた取り組み・工夫を評価する。
法 令 等 の 遵 守	学校評価	自己点検・評価報告書を全項目WEBに掲載している。学校関係者評価は職業実践専門課程の設置学校で実施し、その報告書はWEBに掲載している。		適正に運営されている。
	教育情報の公開	学校の概要や教育内容はWEBに掲載している。教職員に関する情報はその対象となっていないので、情報公開の内容と方法について今後改善を進めていく。		適正に運営されている。